

信州の環境にやさしい農産物認証 栽培事例（すいか）

地域名	松本
地域（標高）	700m
土壌（土性）	黒ボク土

項目	生産計画の内容	補足メモ
1 栽培 状況	(1) 品目 すいか （品種： 祭ばやし）	
	(2) 作型名 ハウス栽培	
	(3) 面積 375 a	
	(4) 栽培戸数又は労働力 1戸	
	(5) 栽培期間 平成27年2月 ～ 平成27年9月	
	(6) 収穫期間 平成27年6月20日頃 ～ 平成27年9月5日頃	
	(7) 収穫量 H25実績 276,000 kg （うち出荷量： 276,000 kg） H26計画 276,000 kg （うち出荷量： 276,000 kg）	

2 栽培 方法	(1) 土づくり	牛ふんたい肥を2t/10a施用後、バイオ酵素を蒔くことで、堆肥を完全に発酵させる。（堆肥を完熟にすることで、作物の健全な生育を助長する）																																								
	(2) 播種	平成27年 2 月中～下旬																																								
	(3) 育苗期間	平成27年 2 月中～下旬 ～ 3月下旬																																								
	(4) 定植	平成27年 3 月下旬																																								
	(5) 肥培管理	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機質肥料施用技術 <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 化学肥料の代わりに、アミノ有機（加工家禽糞肥料）など有機質肥料を施用することで、化学由来の窒素を削減している <p>肥料の施用内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">肥料の種類</th> <th rowspan="3">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="4">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">窒素</th> <th rowspan="2">リン酸</th> <th rowspan="2">加里</th> </tr> <tr> <th>うち化学由来</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アミノ有機</td> <td>150</td> <td>6.0</td> <td>0</td> <td>4.5</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>スイカ特号タイプA</td> <td>40</td> <td>2.4</td> <td>1.1</td> <td>2.4</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>韋駄天1066</td> <td>20</td> <td>2.0</td> <td>0.9</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>210</td> <td>10</td> <td>2.0</td> <td>8.1</td> <td>6.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>80%</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)				窒素		リン酸	加里	うち化学由来		アミノ有機	150	6.0	0	4.5	3.6	スイカ特号タイプA	40	2.4	1.1	2.4	1.6	韋駄天1066	20	2.0	0.9	1.2	1.2	合計	210	10	2.0	8.1	6.4	地区慣行施肥量 (kg/10a)	10	低減率(%)	80%
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																								
		窒素			リン酸	加里																																				
		うち化学由来																																								
アミノ有機	150	6.0	0	4.5	3.6																																					
スイカ特号タイプA	40	2.4	1.1	2.4	1.6																																					
韋駄天1066	20	2.0	0.9	1.2	1.2																																					
合計	210	10	2.0	8.1	6.4																																					
地区慣行施肥量 (kg/10a)	10																																									
低減率(%)	80%																																									

2 栽培 方法	(6) 病害虫防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物農薬利用技術 <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物農薬（BT剤）を使用し、発生初期に防除することで、化学合成農薬の使用回数を減らす。 ・畑の様子をこまめに見に行き、病気や害虫の発生状況をよく観察する。 （虫がいたら適宜除去する。交配時は、交配の作業だけでなく、害虫の除去作業も一緒に行う） <p>病害虫防除の内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分力 カウント</th> <th>除外力 カウント</th> <th>慣行回数への 付加力 カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象 病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺虫殺菌剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">殺菌剤</td> <td>① ベルコートフロアブル</td> <td>1,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="6">13</td> <td>つる枯れ病（予防）</td> </tr> <tr> <td>② ジマンダイセン水和剤</td> <td>500</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>炭疽病（予防）</td> </tr> <tr> <td>③ トリフミン水和剤</td> <td>3,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>つる枯れ病（予防）</td> </tr> <tr> <td>④ スコア顆粒水和剤</td> <td>2,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>うどん粉病</td> </tr> <tr> <td>⑤ シグナムWDG</td> <td>1,500</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>炭疽病、つる枯れ病</td> </tr> <tr> <td>⑥ ストロビーフロアブル</td> <td>3,000</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>うどん粉病</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">殺虫剤</td> <td>⑦ ダントツ水溶剤</td> <td>3,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="4">15</td> <td>アブラムシ</td> </tr> <tr> <td>⑧ ウララDFF</td> <td>3,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>⑨ コロマイト乳剤</td> <td>1,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>ダニ</td> </tr> <tr> <td>⑩ チューンアップ顆粒水和剤</td> <td>2,000</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>アブラムシ</td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>⑪ バスタ液剤</td> <td>300～500ml/10a</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>オオタバコガ</td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td>合計</td> <td>17</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>29</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>削減率(%)</td> <td>56.7%</td> </tr> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分力 カウント	除外力 カウント	慣行回数への 付加力 カウント	慣行回数	対象 病害虫	殺虫殺菌剤										殺菌剤	① ベルコートフロアブル	1,000	1	1	1			13	つる枯れ病（予防）	② ジマンダイセン水和剤	500	1	1	1			炭疽病（予防）	③ トリフミン水和剤	3,000	1	1	1			つる枯れ病（予防）	④ スコア顆粒水和剤	2,000	1	2	2			うどん粉病	⑤ シグナムWDG	1,500	2	1	2		1	炭疽病、つる枯れ病	⑥ ストロビーフロアブル	3,000	1	1	1			うどん粉病	殺虫剤	⑦ ダントツ水溶剤	3,000	1	2	2			15	アブラムシ	⑧ ウララDFF	3,000	1	2	2			アザミウマ類	⑨ コロマイト乳剤	1,000	1	2	2	2		ダニ	⑩ チューンアップ顆粒水和剤	2,000	1	2	2	2		アブラムシ	除草剤	⑪ バスタ液剤	300～500ml/10a	1	1	1			1	アザミウマ類	植調剤									オオタバコガ						合計	17	4	1	29		農薬の使用回数	13	地区慣行農薬使用回数	30	削減率(%)	56.7%
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分力 カウント	除外力 カウント	慣行回数への 付加力 カウント	慣行回数	対象 病害虫																																																																																																																																					
	殺虫殺菌剤																																																																																																																																														
	殺菌剤	① ベルコートフロアブル	1,000	1	1	1			13	つる枯れ病（予防）																																																																																																																																					
		② ジマンダイセン水和剤	500	1	1	1				炭疽病（予防）																																																																																																																																					
③ トリフミン水和剤		3,000	1	1	1			つる枯れ病（予防）																																																																																																																																							
④ スコア顆粒水和剤		2,000	1	2	2			うどん粉病																																																																																																																																							
⑤ シグナムWDG		1,500	2	1	2		1	炭疽病、つる枯れ病																																																																																																																																							
⑥ ストロビーフロアブル		3,000	1	1	1			うどん粉病																																																																																																																																							
殺虫剤	⑦ ダントツ水溶剤	3,000	1	2	2			15	アブラムシ																																																																																																																																						
	⑧ ウララDFF	3,000	1	2	2				アザミウマ類																																																																																																																																						
	⑨ コロマイト乳剤	1,000	1	2	2	2			ダニ																																																																																																																																						
	⑩ チューンアップ顆粒水和剤	2,000	1	2	2	2			アブラムシ																																																																																																																																						
除草剤	⑪ バスタ液剤	300～500ml/10a	1	1	1			1	アザミウマ類																																																																																																																																						
植調剤									オオタバコガ																																																																																																																																						
					合計	17	4	1	29																																																																																																																																						
農薬の使用回数	13																																																																																																																																														
地区慣行農薬使用回数	30																																																																																																																																														
削減率(%)	56.7%																																																																																																																																														
	(7) 雑草防除	マルチ栽培をすることで、雑草の発生を抑制																																																																																																																																													
	(8) 収量の状況	736kg/10a																																																																																																																																													
	(9) その他特記事項	つるは1株あたり3本、つる1本につける実は1つだけ。																																																																																																																																													

3 販売 状況	(1) 主な販売地域	県内
	(2) 販売方法	卸売業者（（有）長野イズミ）を通して市場出荷
	(3) 県認証の活用方法	マークは特に利用していないが、取引先には認証を取得していることをPRしている。
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	取引先から評価を得ている。

始めた動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親が農業をやっていて、引き継いだ。 ・ 環境に配慮した農業に取り組むことに意味があると思い、認証を取得した。
農家のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に配慮した農業に取り組むことの大切さを感じている。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理						播種			定植									収穫							収穫														
病害虫防除											①	⑧		②	③	⑦		④	⑨	⑥	⑩		④	⑦															
除草									⑪																														
土づくり施肥	緑肥作物（ヘイオーツ）を前作収穫後播種・栽培し、すきこみ 肥料は3月に施肥 土壌診断の結果苦土が少なめだったので、「苦土の源さん」と「ハイグリーン」を施用																																						

ここがポイント！

- ・ 強い植物を作るには土づくりから。
 そのために、畑に堆肥を入れた後、バイオ酵素を入れて完全に発酵させることで、良い土を作るようにしている。

<栽培状況等の写真>

